

大西

ハートで感じて
英語をあやつる
新たな英文法の
パイオニア

泰

失敗したってかまわない。
体当たりでやってみることだ!

斗
先生

「ネイティブだったらどう感じるか？」を
いつも意識してほしい

—英文法というと、たくさんの規則や用語を覚えなければいけないと考えている人が多いと思いますが、先生は「英文法を丸暗記するのはやめよう」とおっしゃっていますね。

英語って、いったい何でしょう？ それは、私たち日本人が日本語を使うのと同じように、人が自分のなかの感覚や感情を表現する

言葉です。では、私たちが日本語を使うとき、いちいち文法規則や文法用語を意識しているのでしょうか？ そんなことはありませんよね。ネイティブも同じです。そんなものを介して英語を使っているわけではありません。つまり、英語も日本語も、使っているのは同じ人間。大切なのは、英語のなかに流れている豊かで繊細な感覚をいかにつかみとり使いこなすか、いかにネイティブと同じように英語を感じることができるか—それが最も本質的で、かつ効率的な英語学習法なんです。

—具体的にはどのように学習すればいいのでしょうか。

大事なことは一つだけ。英語に向き合ったとき、常に「ネイティブだったら、どう感じるか？」ということを意識することです。実は英文法って、あっけにとられるくらい簡単なシステムになっているんですよ。これは言語学のトピックなんですけど、おしゃべりな親の元でも、寡黙な親の元でも、子どもは5歳くらいになればちゃんと言葉を話せるようになります。つまり文法とは、どんな条件下でも5歳の子どもの完全に頭に入れることができるくらい単純な構造になっているということです。でも、英語はその単純な構造でとても豊かな表現ができる。それはなぜでしょう？ 理由は単語にあります。単語が非常に重要なんです。ですから、英語を習得しようと思ったら、とにかく息を止めるくらいの気持ちで単語を覚えてほしいと思います。

大切なのは 単語の意味を「深く」知ること

—単語の数を増やすということですか？

数はもちろんですが、それだけではなく、一つ一つの単語を深く知ることが大切です。everという単語を例に考えてみましょう。

Have you ever been to Los Angeles?

という疑問文はOKですが、

I have ever been to Los Angeles.

と肯定文で使ってはいけないことになっています。

でも、everの意味を日本語訳すると「かつて」となるわけで、それなら肯定文のなかで使うのは間違っているとはいえません。それで我々は、理由はわからないけれど、この場合はeverは使わないということを知っていなければならなくなる…。でも実はちゃんと納得できる理由があるんですよ。それはeverがat any time、つまり「いつのことでもいい」という意味を持っているからなんです。疑問文のなかで「いつのことでもいいんだけど、ロサンゼルスに行ったことが

英語学を専門とする言語学者。筑波大学大学院文芸言語研究科博士課程修了後、オックスフォード大学言語研究所客員研究員などを経て、現在、東洋学園大学教授。言語学で得た知見を生かし、英語習得に最適なシステムを研究、提言している。感覚に着目した新たな英文法の解釈は、まさに「目からウロコ」。「英文法をこわす」(NHK出版)、「ネイティブスピーカーシリーズ」(研究社)など著書多数。「3か月トピック英会話ハートで感じる英文法」など、NHK教育テレビの講師としても活躍。



あるの?』というはおかしくありませんが、肯定文のなかでは「いつのことでいいけど、自分はロサンゼルスに行ったことがある」は奇妙に響く。これが、単語を深く知るとのことなんです。

—日本語訳にこだわってしまうと機械的に暗記しなければいけないことが、単語の本当の意味を理解していれば覚える必要がないということですね。

そう。日本語訳で英語を勉強するのは大きな間違いです。英語と日本語はリズムが全然違う。日本語訳にしていると、英語の持つ意識の流れが抜け落ちてしまいます。ですから、長文を日本語訳することに時間をかけるのではなく、その分、原文をそのまま多量に読んでほしいですね。長文を読むとなると、つい日本語訳に飛びつきたくなってしまうかもしれませんが、そこをぐっと我慢して原文にあたってください。

—高校生が読むとしたら、どんなテキストがいいでしょうか。

単語力がそんなになくてもすらすら読めるようなものがいいでしょうね。たとえばハリーポッターのペーパーバックなどがとてもいいテキストになるのではないのでしょうか。ちょっと英語ができるようになると、そういうものをバカにしがちですが、簡単で、ネイティブのスピードで読めるものをくりかえし読むことが英語の学習にはとても有効なんです。そうすることで、英語の独特のリズムを吸収することができますし、頭の中に自分の気に入った英文のフレーズのストックを作ることができます。すると、英語を使うのがとても楽になる。楽に使うことができれば、それが本当に運用する力、つまり能力に結びつくというわけです。英語の語順や文型も単なる暗記事項ではありません。実は意識の流れと密接に結びついている。それをハートで感じながら読むことが大切です。

勇気と理想を持って 体当たりで疑問にぶつかってみよう!

—最後に受験生にメッセージをお願いします。

今、未曾有の不況の時代にあって、受験生のみなさんも将来に対してものすごく不安を感じていることでしょう。でも、この不況の時代って悪いことばかりじゃないと思うんですよ。それは、生きていく厳しさを、人生との闘い方を、大人の背中から学ぶことができるからです。

僕は、生きていくうえで大切なことは勇気と理想を持つことだと思っています。この二つがそろってはじめて人は闘いぬくことがで

きる。でも、勇気とって、エイリアンと刺身包丁で戦うとか(笑) そういうことをいっているわけじゃない。家族が寝静まったあと一人で勉強するとか、わからない問題に何度もチャレンジするといった地道で小さな努力の積み重ね、それこそが社会に出てからも求められる勇気だと思うんです。また、理想もタケコブターを手に入れるというような妄想ではなく、現実に即したものでなければなりません。受験は、こうした勇気や理想を手に入れるためのとてもいい練習になるのではないのでしょうか。

個性が大切というけれど、個性って自分勝手に得られるものではないんですよ。疑問を持ったら、体当たりでぶつかってみる。それが跳ね返ってきたとき、はじめてほかの人にはない個性が生まれます。僕自身も高校時代、「日本では、どうしてこんなに長い時間英語を勉強しても日常会話すらできるようにならないんだろう?」という疑問を持ち、それを何とかして解決したいと思ったことが今につながりました。失敗してもかまわない。とにかくやってみることで。人生は努力しなければ何も得られないほど厳しいものではあるけれど、同時に、一生懸命努力した人が何も得られないほど冷たいものでもない。人生は十分、生きるに値する暖かいものなんです。



**英単語
イメージ
ハンドブック**
大西泰斗・ポール・マクベイ

Illustrated images
Verb images
Noun images
Preposition images
Conjunction images
Tense images
Miscellaneous images

▲おすすめ
BOOKS

「英単語イメージハンドブック」
(青灯社・税込1890円)
大西泰斗/ポール・マクベイ著

大西先生による「イメージの英語学習」を一冊にまとめた、高校生にお勧めの書。冠詞、基本動詞、助動詞、前置詞、接続詞、時制など、もっとも大切な基本語彙をスッキリわかりやすく説明している。英語につまづいたらどうぞ。「こんなにカンタンだったんだ」満載です。

英語はシンプルにできている

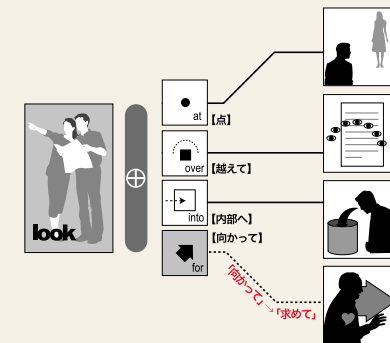
英語はネイティブにとって、とてもシンプルでスッキリしています。構文も表現の意味も、丸暗記をしようと思わずに彼らのハートをつかめば、理解できる。自然に身につくんです。たとえば「熟語」。

I'm fed up with this terrible weather.
このひどい天気にはうんざりだ

なぜ be fed up with で「うんざり」なのでしょう。feed は「えさをやる」なのに。はは。それはね、左の絵のようなイメージをネイティブが持っているからだ。ほら、えさがドンドンやってきて喉元まで……もうウンザリでしょう。

みなさんが「熟語」だと思って機械的に丸暗記していたもの、そのほとんどには自然な理由があります。「look+前置詞」を眺めてみましょう。

forにはさまざまな日本語訳が対応します。ですがネイティブが感じているイメージ(中核的意味)は「向かう」。ここから「求める」が生まれてきます。何かに向



かっているという位置関係は「それを求めている」という連想を生みますから。look と for が結びつくと「求めて目をやる」、つまり「探す」となるというわけです。ネイティブなら誰でも意識している単語の本来的な意味がわかれば、熟語なんて何でもない。日本語訳を覚える必要などどこにもないのです。

熟語でも単語でも構文でも、英語にはいつでもハートが流れています。それさえしっかりつかまえば、英語はシンプルでとても自然なことばなのです。がんばってくださいね。